

## ●残暑が続いています。水分補給を忘れずに！

草木も秋の装いに変化しています。よく観察してみてくださいね！

### ○ヒガンバナはクローン植物

●ヒガンバナは染色体の関係上、種子を作ることが出来ず、球根でのみ増えます。つまり全ての個体が分裂で増える同じ遺伝子を持つクローンなのです。球根でしか増えることが出来ないため、元の株のそばか、人為的、もしくは何らかの影響で球根が運ばれてきた場所にのみ新しい芽を出します。

#### ■植物のクローンとは？

自然界では同一の遺伝子情報をもつ個体をクローンといいます。植物の場合、遺伝子が組み変わることなく日常的にクローンを作り出し、繁殖しています。身近なところというと、球根で増える植物（チューリップやニンニク等）、イモで増える植物（サトイモ、ジャガイモ、サツマイモ等）、地下茎で増える植物（タケ等）、その他にも葉で増える植物もあります。また、挿し木や接ぎ木など、人為的に増やす方法もあります。



### ○ヒガンバナの変わった生態

●秋の彼岸の時期になると、園内のあちこちで赤い放射状の花を目にします。最初に花茎がニューっと伸びて花だけ咲き、秋から冬、翌年の春の草が生えない頃に青々とした葉を広げ、春になり、他の草木が生い茂る頃に葉が枯れて休眠時期に入ります。似たような生態をもつ植物としてコルチカム（イヌサフラン）があります。



### ○十五夜のお供え物

●令和5年の十五夜は、9月29日（金）です。ところで、十五夜にはお供え物をしますが、何を供えするか皆さんご存じでしょうか。一般的には、お団子、すすき、その時期の収穫物（サトイモなど）です。月見団子は満月に、すすきは稲穂にそれぞれ見立てています。また、お供えをした月見団子を食べて、健康と幸福が手に入るそうです。さらに、すすきには魔除けの効果もありお月見に供えたすすきを軒先に吊ると無病息災につながるともいわれています。



### ■今月の鳥 「アオサギ」

今、映画で話題のアオサギ。ペリカン目サギ科アオサギ属に分類され、国内ではもっとも大きなサギです。青みがかった灰色の羽根をしており、そこからアオサギと呼ばれるようになりました。凛として迫力のある姿ですが、清少納言の「枕草子」ではサギは不格好な鳥として表現されています。それとは反対に海外では縁起のよい鳥とされ、古代エジプトでは再生の象徴でもありました。集団でコロニーを作り、毎年同じつがいで行動しますが、繁殖期以外は単独行動することが多いようです。公園内で見かけるアオサギも単体の場合がほとんどです。



#### ■お月見のルーツについて

お月見の起源は中国で、それが平安時代の貴族の間で広まったのが現在のお月見のルーツといわれています。平安時代のお月見は、直接月を眺めるのではなく、水面や盃に映る月を愛でていたそうです。平安時代に思いを馳せながら、水面に映る月を楽しむのも風情がありますね。

#### ★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram [https://www.instagram.com/koga\\_kubou/](https://www.instagram.com/koga_kubou/)  
Twitter [https://twitter.com/kubou\\_park](https://twitter.com/kubou_park)

#### ■Instagramアカウント



#### ■Twitterアカウント

